

こんぼくやま いそべ べざいてんこふんぐん
13. 今北山・磯部・弁財天古墳群

所在地：鯖江市落井町・磯部町・乙坂今北町地係

調査原因：範囲内容確認調査

調査期間：平成 24 年 6 月 1 日

～平成 25 年 3 月 31 日

調査主体：鯖江市教育委員会

調査面積：約 300 m²

時代：弥生時代・古墳時代ほか



位置図 (S=1/50,000)

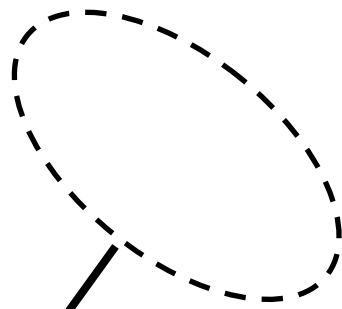
調査の概要 本遺跡は鯖江市東部の低丘陵に位置し、総数 63 基の古墳や墳墓（以下まとめて古墳と記述）が分布しています。とりわけ、今北山古墳群には丹南地域最大規模の今北山古墳（前方後円墳・全長 76m）ほか比較的大型の古墳が未調査ながら確認されており、その重要性から平成 16 年に市指定文化財（史跡）となっています。市では本遺跡の国史跡指定を目指し基礎資料を得るため、平成 22 年度から最も南側にある弁財天古墳群の発掘調査に着手しています。今回も前年度の課題を踏まえ古墳の存在や形状が不明瞭な場所をはじめ、高地性環壕集落の実態を見極めるため広範囲においてトレンチ調査を実施しました。

遺構 昨年度確認した環壕状遺構の内側にある弁財天山頂（標高約 120m）平坦面において竪穴建物 2 棟を検出しました。竪穴建物 1 は東西、南北方向ともに 3 m 以上の規模を持つ隅丸形状に復元されます。竪穴建物 2 は 8 号墳の下層で確認されたため集落域が後に墓域へと変遷したことがうかがえます。最大規模の 1 号墳（円墳・径 24.2m）では埋葬施設の有無の確認を目的とした調査を実施しました。その結果、長軸 9.25m、短軸 3.6m の埋葬施設を検出し、サブトレンチの土層堆積状況などから内部に割竹形木棺を安置したものと考えられます。このほか古墳に伴う周溝等の遺構を多数検出しました。

遺物 コンテナ 4 箱分相当の土器が出土しました。竪穴建物跡では甕や壺、高坏といった生活に伴う土器が出土し、一時的に人が居住していたことがうかがえます。いっぽう古墳に伴うものとして 1 号墳埋葬施設内から鉄剣が出土しました。このほか周溝等の遺構から土器が出土していますが、細片が多いため詳細については慎重な検討が必要です。

まとめ 竪穴建物跡については昨年度検出された環壕状遺構と同じ弥生時代後期前半のものと考えられ、高地性環壕集落に伴う遺構とみて間違いのないでしょう。古墳群築造に先立つ弥生時代後期前半の丹南地域における社会動向の一端を示す遺跡として貴重な成果を得ることが出来ました。また、これまでの調査によって本古墳群が方形墳 40 基、円形墳 2 基の計 42 基から構成され、おおそ弥生時代後期後半から古墳時代中期初頭の範囲内に築造されたと考えられるようになりました。次年度は隣接する今北山古墳群に調査の軸足を移し、古墳群全体の様相を明らかにしていく予定です。

（深川義之）



2³, a*L(xW



9x... ö#" x7ÿ- b#" x ÿ-W

